



(兵庫発)

# 「あけび」との出会い

→ 今後、私たちの取り組むべき事 →

(株) ニッケケアサービス

デイサービスセンター ひまわり苑

看護師 松本 明美

日頃、パーキンソン病、パーキンソン症候群の症状がみられるご利用者様に対してどんなケアをすれば良いのか常に迷っていました。様々な本を参考にしようにもなかなかその通りにならないことが多く、さらにパーキンソン病の方への症状について他のご利用者様の理解が得られず誤解を招くこともありました。

そうした折、西播磨リハビリテーションセンターでの研修でパーキンソン病の方が集うデイサービス「あけび」を知り、それが同所の林さん、木村さんを知るきっかけになりました。

お二人に、「ご本人様・ご家族様の困っている現状を話し、デイサービスでの接し方などをはじめとし

が出来るように、少しずつ出来ることから積極的に取り組んでまいります。私の施設がパーキンソン病の方々の「交流の場」となることを願っています。

## 「あけび」の役割

兵庫県支部 木村 美貴子

神経難病(パーキンソン病)の人たちを中心とした集いの場である通所介護施設の「あけび」に、見学や相談に来られる方は患者さんやご家族だけではなく、福祉施設従事者も増えました。

昨年10月、「パーキンソン病ケアセミナー研修」があり、テーマは「パーキンソン病の在宅をどのように支えていくか」でした。セミナーの講師として施設長の林と患者の木村が依頼を受けてそれぞれ立場で報告を致しました。そのセミナーに参加されていた加古川市にあるデイサービスのナースが「自分が受けた共感を職員と共有したい!!」と数日後、「あけび」に4名のスタッフを連れて来られました。

あれから約1年になります、ケアマネとナースのパーキンソン病に対する取り組みは、私たちも実際驚くほど熱心です。

施設内ではパーキンソン病を学習するための予算

ていろいろなことをアドバイスしていただきました。そのアドバイスをもとにして新聞の広告を利用して作った棒を使って行うストレッチ体操や、「大の字」に寝転んでリラクゼーションすることなどのリハビリも取り入れられました。その中でもみなさんが積極的に取り組んでいるのがハーモニカです。ハーモニカの音色は、個性があつて、ひとりひとり異なりそれがまた、とても素敵です。今では年に数回、苑内で演奏を発表する機会をもつことが練習の励みになっています。



今後は笑顔で住み慣れた町で暮らし続けていただくための支援を目指し、「あけび」のように地域に根付いていきたいと思えます。以前にご家族様から困っている事の相談を受けた時に適切なアドバイスが出来ず、結局はご本人様・ご家族様の思いに寄り添えずにサービスが中止になってしまったこともありました。それぞれの思いにズレのようなものがあつたのかも知れません。相談を受けた時に、心強く思っていただけける対応

が生まれ、友の会への入会、友の会の交流会参加、また各地で開催される講演会に参加されるなど、1年間に多くのことを学ばれ、「パーキンソン病があつても、住み慣れた町で暮らし続けていくための支援を目指していきたい」と患者には嬉しい報告がありました。

地域の人たち、福祉関係、職員、患者・家族等多くの人たちにパーキンソン病を知って頂きたい。そして施設をパーキンソン病の方たちの交流の場にしたいという思いから、11月6日には、宇多野病院の水田英二先生をお迎えして、はじめてパーキンソン病の講演会と相談会を開催されました。当日は患者・家族の参加はもろろんですが、若い人たちが多かったのは福祉関係の方々でしょう。山本支部長の挨拶にもありましたが、このように施設が積極的にパーキンソン病の学習をして病気を理解し、地域の中で交流の場を作って下さることは私たちが持ち望んで来たことです。

講演会を第一歩として毎月第一日曜日に施設で交流会をされる事が決定しています。「あけび」の役割は、全面的に支援をすることだと思っています。